

太宰が住んだ大宮 探索ツアー 2026

～ 名作『人間失格』を生んだ街を歩く～



～ 太宰が毎日のように歩いた 氷川神社 二の鳥居～

後援：埼玉新聞社

開催日時：2026年5月10日 日曜日
正午12時～午後3時30分

※ お昼ご飯は済ませてご参加下さい。

集合場所：JR大宮駅コンコース「まめの木」集合 現地解散

費用：大人/学生 2,800円 高校生以下 1,000円

※ 資料代、語り劇参加費を含みます

語り劇は後日視聴できます。詳しくは裏面へ

主催：太宰が住んだ大宮 ホームページ管理人 玉手洋一
専用メールアドレス omiya_dazai@yahoo.co.jp

※ ご参加をご希望される方は、お名前、ご住所、ご年齢をご記入の上、上記のメールアドレスへお申込み下さい。右にあるメールお申込QRコードを読み取り「メール作成画面はこちら」をタップ、メールフォームにご記入下さると簡単です。

募集人数 限定 30名

締切 5月3日(募集人数に達した時点で締切ります)

関連ホームページ <http://omiyadazai.ninja-web.net/>



メールお申込み
専用QRコード



ホームページ
QRコード

■ 太宰が住んだ「大宮」という街

太宰治は、昭和23年より、名作『人間失格』の執筆に取り掛かっていました。の筑摩書房の社長古田晁は、彼へ静かな執筆環境を提供するため、自身の親戚の住む大宮を選びました。

古田晁は、同郷で知り合いであった天ぷら屋「天清」のご主人小野澤清澄さんより、自宅1階の奥の部屋を書斎として提供することの了解を受け、義兄が営む「宇治病院」へ通院させる事とし大宮へ連れてきます。太宰が大宮に住んでいたのは、昭和23年4月29日から5月12日までの約二週間でしたが、小野澤清澄さん家族とのふれあい、緑溢れる氷川神社参道などに囲まれ、心から安らぎを持って執筆活動に打込み、第三の手記の後半からあとがきまでを書き上げ、ようやく『人間失格』を脱稿としました。

小野澤宅を後にする際は、「次の『グッド・バイ』もここで書きたいので、部屋を空けておいて下さい」と言い、三鷹の自宅へ向かいました。

それから1ヵ月後の6月12日昼過ぎ、太宰は突然ひとり、宇治病院へ、古田晁を求め訪ねてきました。

「古田さんいる？」

しかし古田晁は、太宰を山梨県の御坂峠で静養させるためにと、故郷の長野県塩尻へ、食材や物資を集めに掛かっていた留守でした。

そのあと太宰は、書斎の提供を受けた小野澤宅を訪れました。

「『グッド・バイ』がちっとも書けないでね、困っていますよ。。。」

と寂しそうにもらし、古田晁に逢えなかったのをたいへん残念がっていました。

太宰が、愛人山崎富栄と玉川上水に身を投げたのは、その翌日、13日の晩でした。

■ 太宰治 略歴

津軽有数の大地主の家に生まれ、父は貴院議員、兄は衆院議員を務めた。青森中時代から作家を志望、弘前高を経て東大入学後、井伏鱒二に師事。昭和10年佐藤春夫らの日本浪漫派に参加。

「逆行」が第1回の芥川賞次席になり、作家としての地位をかためる。

14年結婚以後「富獄百景」「走れメロス」「新ハムレット」「津軽」「お伽草子」「女生徒」などを発表。戦後22年に代表作となった長編小説「斜陽」や「ヴィヨンの妻」「人間失格」などを相次いで発表したが、23年6月、遺稿「グッド・バイ」を残して山崎富栄と共に玉川上水で入水自殺を遂げた。

■ 探索ツアー内訳 案内人：玉手 洋一

太宰が大宮に住んだ頃に見た景色、僅かですが今も残っています。案内人玉手の説明とともに巡ります。

死の前日に駆け込んだ宇治病院旧宅を、ご厚意で特別に公開して頂きます。あの日の景色、感じて下さい。



氷川神社



大宮製油



宇治病院旧宅



大西屋酒店

■ 小河知夏劇場 語り劇『人間失格』より「はしがき」「あとがき」

昭和23年5月10日は、太宰治がここ大宮で、『人間失格』を脱稿（書きあげた）日です。『人間失格』の最初の章「はしがき」と、この日に書かれたと思われる部分である、最終章である「あとがき」を、ひとり劇団「小河知夏劇場」として活動をされている小河知夏さんに演じて頂きます。

太宰治の人生を思い起こさせる、主人公が引き起こす事件の数々、そんな彼でも唯一温かく見守っていたバーのマダムの優しいささやきを再現していただきます。ぜひ皆さんも事前に『人間失格』本編をお読みになり、この街を歩いて感じた上あの日に戻ってください。



小河知夏劇場の語り劇と大宮での太宰についてのお話は後日視聴もできます。

視聴参加費：2,500円

お申し込みなど詳しくは、小河知夏劇場ホームページイベントサイトをご覧ください。

<https://ogawa-chinatsu.com/category/event-info/>



QRコード

○小河知夏

1979年群馬県生まれ。声優として活躍した後、文学作品をまるで映画を観たように語る新たな試み「語り劇」の創作に取り組み、一人劇団「小河知夏劇場」として、各所で上演、動画配信も行っている。